

# 【ねがいましては】

第44号

平成4年4月24日  
共和珠算塾 新浜

「仲よし」

きょうはとても良い天気です。青空が澄み渡り、風がそよそよと新緑にあいさつをしてまわっています。ここも不思議と穏やかになります。そんなきょう、睦まじい姿がふたつ、心に残りました。

西浜公園から少し行ったところに西浜オートという中古車屋さんがあります。そこには犬がおります。秋田犬です。そして鳥がおります。ちょっと名前はわかりませんが、ガチョウの仲間でしょうかガーガーと鳴きます。その一匹と一羽が仲良くしています。ガチョウ（とりあえずそういうことにします）さんは秋田犬の毛づくろいをしています。くちばしで犬のうなじあたりをつづいてあげています。犬は目を細めて心地よさそうに寝そべっています。日向ぼっこをしながらなんともむつまじい光景。

もうひとつ、西浜公園のわきを老夫婦の方が歩いています。おばあさんの方は足が弱っているのでしょうか、乳母車をおしています。お二人でトコトコと歩いていました。私が教室に入り、しばらくして何気なく外を見ると、お二人で仲良く「箱ブランコ」（子どもたちがそう呼んでいます）に、ギーコギーコ・ユーラリユーラリと日向ぼっこをしています。

仲良しというのはとても心を温かくしてくれます。子どもたちも友だちがたくさんいてみんな仲良しです。そこから心が育っていくような気がします。友だちの心の中を心配してあげたり、同情してあげたり。どこから学んだのか、この子がこんなに友だちのことを心配して、きっと仲良しをたくさん見てきたのかもしれません。この子たちにとっての一番身近な仲良しは、お母さんそしてお父さん、そして、そして、お父さんお母さんが仲良くしているところをたくさん見てきている子は、きっと明るくて、仲良しを分けてあげられると思います。

ここに灰谷 健次郎さん著「林先生に伝えたいこと」（新潮社）の中から、7歳の子どもの書いた詩を3編ご紹介します。

どくしん よしむら せいでつ  
おかあさんはよその人に  
どくしんやゆわれてよろこんどう  
としいつとう人かて  
どくしんの人がおるのにな  
けっこんしている人は  
どくしんになりたくて  
どくしんの人は  
けっこんしたがる

人 なかた ゆうすけ  
えらい人より  
やさしい人のほうがえらい  
やさしい人より  
金のない人のほうがえらい  
なぜかというと  
金のない人は  
よくさみしいなかで  
よくいきているからだ

けんこう みき くみこ  
テレビであかちゃんのしゅずつをみて  
おかあさんはかわいそうにといって  
なみだをだしていました  
はなべぢやでもぶすでもいい  
けんこうが一ぱんやといって  
おかあさんはわたしをみました

私たちの忘れかけているものを、7歳の子らがひとつひとつ教えてくれます。ありがとね。

5月のよてい

5月16日（土）	検定試験申し込みしめきり
30日（土）	検定試験（10級～4級）・・共和珠算塾
31日（日）	〃 （3級以上）・・・・中央商業高校